

平成27年度施策評価シート

基本施策	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
総合計画での位置付け	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	分野	4	文化
主要な計画	・歴史文化基本構想、保存活用計画 ・歴史的風致維持向上計画 ・伝統的建築物群保存地区保存計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・本市は、900件以上の指定文化財、2つの国の重要伝統的建造物群保存地区を有しているが、文化財の管理には多くの費用と手間がかかり、経済情勢の悪化や高齢化などにより所有者による保存が困難になる例が増えている。</p> <p>・本施策は、先人たちの英知と努力により築かれ受け継がれてきた伝統文化は市民一人ひとりの貴重な財産であるという認識のもと、これらを次の世代へ継承することを目的としている。</p>		

1 概要

施策	施策の内容	これまでの取り組み	担当部局
1 文化財などの保存・伝承	ア 歴史的に価値ある建造物、遺跡、伝承芸能、歴史資料などの保存・活用	・国・県・市文化財補助、埋蔵文化財の発掘調査、伝承芸能保存団体への補助、郷土資料の購入及び展示等による活用を行った。	教育委員会
	イ 重要伝統的建造物群保存地区における修理修景や防災対策、その周辺地区も含めた歴史的町並みの再生	・伝建地区内の無電柱化の推進、修理修景への補助、グループ自火報など防災設備への補助を行った。	教育委員会
	ウ 地域に埋もれている貴重な文化遺産や歴史ある地域資源の調査・再発見	・郷土資料の購入及び展示等による活用、伝承芸能保存団体への補助を行った。	教育委員会
	エ 伝統文化、伝承芸能、伝統行事、伝統の技や味などを継承できる後継者の育成や映像での記録	・ふるさと伝承記録の製作、伝承芸能保存団体への補助を行った。	教育委員会
	オ 地域の歴史を守り伝える活動や技術の継承を行う人材の育成による文化財の保存・活用	・ボランティアガイドの育成講座、高山歴史講座の開催、各支所地域での文化財講座の開催、伝承芸能保存団体への補助を行った。 ・屋台の技術後継者育成のため、修理技術を修得しようとする者の補助金制度を設立した。	教育委員会
	カ 文化財指定建造物や伝統的建造物群保存地区における建造物の耐震化・バリアフリー化・建築規制緩和に向けた調査	・高山市伝統構法耐震化マニュアルを作成し、講習会を開催した。景観町並保存会との協働でのアンケート調査等を行った。	教育委員会
	キ 市や地域の歴史刊行物の編纂	・「国府町史」や「高山市史」を発行した。現在、引き続き「高山市史」を作成中。	教育委員会
2 た 歴史地域・文化を づ づくりを く 活用し	ア 旧矢嶋邸の復元的整備や寺院群などを巡る周遊ルートの整備、歴史的な街道や街道沿いの農山村集落などの景観の保存・活用	・まちの博物館を拠点とした周遊マップを作成した。越中街道や平湯街道など歴史的な街道の調査及び整備を行った。	教育委員会
	イ 世界文化遺産登録への取り組みの推進	・世界無形遺産登録に向け、文化庁と協働で資料等の作成、地域と一体となって登録に向けた啓発活動を行った。	教育委員会
3 親しみ理解する 機会の充実	ア 歴史や文化に親しむ場の整備、活用の推進	・まちの博物館における年4回の特別展の開催、風土記の丘学習センター、市政記念館などでの展示の充実やイベントの開催を行った。	教育委員会
	イ 景観にふさわしい標識や散策ルートの整備	・無電柱化の推進、文化財標柱の整備、文化財説明看板の多言語化を行った。	教育委員会
	ウ 歴史や文化を理解する機会の充実	・まちの博物館における年4回の特別展の開催、風土記の丘学習センターでの土器づくり、勾玉づくりの開催、赤保木町内会等との協働でのイベント開催、歴史講座の開催を行った。	教育委員会

2 指標の推移

指標名	単位	関連施策	好ましい方向	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標
市指定文化財の修理数	件	1-ア	→	2	—	3	3	1	2	1
伝統的建造物群保存地区修理・修景数	件	1-イ	→	10	10	10	7	10	8	10
資料の流失、散逸を防いだ件数	件	1-ウ	→	18	55	65	60	35	64	50
文化財保護団体に対する補助。	件	1-エ	↑	46	46	46	47	47	46	47
ボランティアガイド育成講座の開催	回	1-オ	↑	8	8	12	17	9	11	18
刊行がなされた市史等の巻数	冊	1-キ	→	6	6	1	1	1	1	1
整備歴史街道数	箇所	2-ア	→	1	3	3	2	1	3	2
各施設(まち博を除く)自主事業回数	回	3-ア	↑	3	6	6	6	6	6	6
指定文化財等の説明看板、石柱等作製設置	箇所	3-イ	→	53	43	40	10	2	3	8
まちの博物館(郷土館)特別展開催数	回	3-ウ	↑	1	—	4	4	4	4	4

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21	点数	65.8	(平均) (54.6)	76.1	(平均) (79.7)	Ⅳ	低い
	順位	42施策中 3 番目	42施策中 29 番目				
H25	点数	66.9	(平均) (56.9)	78.3	(平均) (81.8)	Ⅳ	低い
	順位	43施策中 4 番目	43施策中 32 番目				
H27 (今回)	点数	66.5	(平均) (56.0)	78.1	(平均) (81.2)	Ⅳ	低い
	順位	43施策中 4 番目	43施策中 28 番目				

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		教育委員会事務局	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	文化財などの保存・伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保護は永続的なものであり、保存計画に基づき、指定文化財の保護保存や伝建地区内の修理修景事業を推進し、文化財の保存活用を図ることができた。 ・貴重な郷土歴史資料の流失、散逸を防ぐとともに、まちの博物館の特別展での公開や調査研究資料として活用できた。 ・貴重な無形文化財を記録保存し、無形文化財の保存、伝承に活用できる伝承記録を整備できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保護は永続的なものであり、今後も継続して実施していく。 ・保存計画に基づき、地区内の修理修景事業を推進し、文化財の保存活用を図っていく。 ・高山市にとって貴重な資料が散逸しないよう、購入を進める。 ・無形文化財の伝承保存を図るため、継続的に記録保存を進めていく。
2	歴史・文化を活用した地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史街道の現況測量調査や整備など、地域において文化的な価値付けの元となる基礎的な調査の蓄積が成された。 ・無形文化遺産の登録は、ユネスコへの再提案が行われ、平成28年に審査される予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民への啓発及び地元における歴史的価値の再評価を行い、地域で保存、活用を図れるような取り組みを行う。 ・世界文化遺産登録への、課題整理、市民等の取り組みの検討などを進めていく。
3	親しみ理解する機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展・講座等を通して郷土史に対する市民の理解を深めた。 ・施設の機能強化、展示の充実を図り、市民がより郷土の歴史に親しめるような環境づくりを図った。 ・文化財の活用・啓発のため、石柱、説明看板等が計画的に設置され、見学者等の利便が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示や事業の充実を図り、幅広い分野での学習機会を提供する。 ・多言語化表記の普及も踏まえつつ、計画的な説明看板の設置を全市的に行っていく。

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な行事等の後継者が不足している。 ・様々な文化財や施設の活用が十分ではない。 <p>といったことが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度が高く、今後の重要度が低くなっているが、先人たちの英知と努力により築かれ受け継がれてきた伝統文化は、本市の貴重な財産であるため、教育振興基本計画をはじめとした諸計画に基づき、文化財などの保存・継承、歴史・文化を活用した地域づくり、歴史・文化に親しみ理解する機会の充実に取り組んでいく必要がある。</p> <p>特に、後継者の育成や文化財等の効果的な活用について、地域や学校と連携して取り組んでいく必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルの時代だからこそ「高山で生まれて育ち、本当に良かった。」という思いを自分の中に誇りと自信につなげていけるように、高山市の歴史や人々の暮らしや考え方を子どもたちが知ることが大切である。 ・まちの博物館にて、度々行われる市民への歴史勉強会では、知識の深まりが得られる。気軽に入館できるまちの博物館は市民にとって歴史に親しむことができるものになっている。 ・まちなみは、伝建地区などの無電柱化をすすめられ、景観もよりよくなっている。 ・高山の町や文化、文化財を大切なものとして、より価値観の共有を図ることが大切である。 ・「ゆたかさのあるまちをめざして」という中の「ゆたかさ」とはどんな意味や見方があるのか、更に検証していくことが大切である。

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成27年度事業評価における担当課評価)

関連施策	事業コード	事業名	評価	事業費決算額(千円)	
			点数	H25年度	H26年度
1-ア	94703	市内遺跡発掘調査事業	80	3,661	2,776
1-ア	94710	郷土資料・図書購入事業	70	6,913	3,000
1-ア	94730	文化財保護事業補助金	90	6,032	6,395
1-ア	94733	国指定文化財保存修理事業	80	12,172	4,000
1-ア	94740	市指定文化財保存修理事業	80	3,229	10,076
1-ア	94760	高山祭屋台保存修理事業	90	38,001	36,027
1-イ	94755	伝統的建造物群保存地区保存事業	90	40,252	40,186
1-イ	94757	伝統的建造物群保存地区防災対策事業	90	40,469	27,541
1-イ、3-イ	94758	歴史的町並再生事業	—	215,638	—
1-エ、カ	94754	歴史的風致維持再生事業	80	3,204	486
1-キ	94783	市史編纂事業費	80	6,158	9,429
2-ア	94759	歴史的遺産等保存活用事業	70	1,493	1,631
2-イ	94753	世界文化遺産登録推進事業	60	193	96
3-ア、ウ	94800	飛騨高山まちの博物館管理費	80	24,099	25,789
3-ア、ウ	94815	風土記の丘学習センター等管理費	80	3,204	3,470
3-ア、ウ	94840	文化財施設管理費	70	46,364	44,653
3-ア、ウ	94845	飛騨高山まちの博物館特別展開催事業費	80	1,152	1,398
3-イ	94750	文化財啓発事業	70	415	454

平均点	H25年度	H26年度
78.82	452,649	217,407